

共用品 になるための 工夫

分かりやすく
するためには？

1

複数の手段で情報提供

触覚(含む点字)、音声、振動、文字、光など、複数の手段で情報提供し、識別しやすい



視覚・聴覚情報を強化

大きな文字やフォント、コントラスト、音量や周波数などで、類似のものと比較して身体特性を補完



理解しやすい表現方法

わかりやすい文章・絵・図記号、色分け、ゆっくりの音声、他言語などで類似のものと比較して理解しやすい



アプローチのための情報提供

触知図、案内表示、音声案内の充実などで、多様な人へアプローチ情報を提供



- 触知図
- ガイドアナウンス
- 誘導表示、音声誘導

移動のしやすさ

様々な人に配慮したエレベータ、スロープ、自動ドア、手すり、床素材など移動支援の手段を用意している



利用しやすい位置・配置

カウンターの高さ、操作盤や取り出し口の配置など接近性が類似のものと比較して利用しやすい



アクセスしやすく
するためには？

2

容易な操作

片手、左利き、弱い力でも、器用さなどに配慮し、類似のものと比較して操作しやすい



操作のフィードバック

わかりやすい操作感、報知音、表示などでフィードバックし、操作状況を確認できる



自動化されている

類似のものと比較して複雑な操作を自動化・簡易化して、多様な人にも利用しやすい



使いやすく
するためには？

3

「バリアフリームーブメント」

“いざ”じゃないとき知る知識！
“いざ”というとき引き出す知識！

最終号

～今回のテーマ～
「身近にある共用品の工夫を再発見！」

既存の製品をより多くの人使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や情報を紹介しているこのコーナー。
最終号となる今号は「皆さんの身近にある共用品の工夫」を紹介する。

平成11年4月(財)共用品推進機構は障害のある人や高齢の方々にとって使いやすい製品を普及することを目的に設立された公益法人である。前身の市民団体から合わせると、20年以上も障害のある人や高齢の方々にとって使いやすい製品、「共用品(アクセシブルデザイン)」、「ユニバーサルデザイン」ともいう。)の調査・研究、標準化、普及・啓発等に努めている。

本誌上においては、平成13年11月から平成21年の最終号となる今号まで約8年間に亘って、「共用品の工夫」をご紹介してきたが、随分と一般にも浸透してきたことを受け今号でひとまず最終号となった。

そこで今号では再発見の意味も含めて、共用品の考え方や工夫を紹介したいと思う。また「共用品」の最大の特徴は、「障害のある人や高齢の方々にとって使いやすい専用の製品」ではなく、「障害がない人にとっても使いやすい製品」ということである。

普段の何気ない日常の中で、ほんのちよっと気にとめて頂ければ幸いです。

みんなが使いやすくなるためには、どうすればいいの？

トランプを例にとって考えてみましょう。

通常のトランプだと、

普段使っているトランプは、左利きの人が使うと数字が消えてしまいます。

ホルダーがあると・・・

ホルダーがあると、右利きの人も、左利きの人も、見えづらい人や、見えない人、手の自由が利かない人など、多くの人が一緒に遊ぶことができます。

今あるものに、ちょっとした配慮や工夫をすることで、より多くの人、使えるようになる。これが、「共用品」の基本的な考え方である。

●読者の皆様へ●
連載が始まった当初、長距離トラックの運転手さんから「ビールの上部に点字がついていることに感動した。知らせてくれてありがとう」と電話をいただいた。また博物館のバリアフリーの記事を掲載した際には、知的障害のある方から「これまで博物館に行ったことがなかったけど行ってみたいと思う。ありがとう」と連絡をいただいた。ここでは書ききれない、ありがたう、をいただいたこと、最終回を迎えるにあたって改めて思い起こすことができたと同時に、読者の皆さんの言葉や思いに支えられてこのコーナーが成り立っていたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

約8年間、毎月一回、一度も休むことなく本紙面上で「共用品」の工夫を伝えることができたのは、小学館の広告局や編集関係者の皆様を始め、昨今の情勢にも負けず、消費者のことを考えて共用品を作り続けてきた各企業や団体等のお陰である。

8年間本当にありがとうございました。またいつの日か、皆さんとお会いできるといいな。

(財)共用品推進機構
森川美和